# 新小学校学習指導要領における外国語教育の在り方を見据えて，今，取り組みたいこと

平成３０年度鳴門教育大学小学校英語教育センターシンポジウム基調講演

直山木綿子（NAOYAMA Yuko）
文部科学省初等中等教育局　教科調査官

こんにちは。只今大変ありがたいご紹介をいただきました。これってプレッシャーですよね･･･。今日は、今から１時間お時間をいただいて、このタイトルでお話をさせていただきたいと思っています。

お手元の方に、冊子とは別刷りでホッチキス留めの資料を印刷していただきました。これは後でパワーポイントにも出てきます。

そのあと３ページ分、一覧表になっているものがあります。ご存知のとおり、高等学校の学習指導要領が改訂されて、今、高等学校の学習指導要領の解説（案）がもうホームページに上がっています。今、解説の色んな語句を修正しているところです。

高等学校の解説の後ろに、こういう一覧表が載りました。小学校と中学校の解説は既に発行しておりますが、そこには高等学校の分がなかったのです。が、高等学校の解説には小学校の中学年外国語活動、高学年外国語、中学校の外国語、高等学校の外国語の目標が一覧表にすべて示されたということです。

この度、いかに小中高一貫した教育を求めているかということが、ここからもお分かりいただけると思います。移行期は２年間ですが、既にもうその４分の１が過ぎようとしていますので、あと４分の３でぜひ取り組んでほしいことを、今日は，２点に絞ってお話をします。

赤字で書いてあるところが、そのキーワードです。まず、「言語活動を通して」ということ。そして、今回の改訂では小中高一貫した教育をねらっている訳ですが、中でも一層充実したものにしてほしい「小中連携」について、この２点に絞ってお話をしたいと思います。

「言語活動を通して」ということを今日は少しでもご理解いただきたいことに加えて、「それってどんなイメージなのかな？」というのを持っていただけたらと思います。そして皆さんが言語活動を繰り返していかれる中で、授業の中でご自身の英語力も鍛えていただく、そして授業以外の部分でも、英語力を鍛えていただきたいということです。

「小中連携」について。学年が上がるにつれて、特に英語教育に関しては，子どもの意欲が落ちていくというデータが出ています。英語以外でもそうなんですが、その下がり具合が特に英語は大きいという訳です。そこをね、なんとかしたい。「ようけ学んだし、ようけやりたいわ！」という子どもを、みんなと一緒に育てていきたいなと思っています。

では早速、みなさんに少し体験をしていただこうと思います。まず、場面・状況です。今日、皆さんには、可愛い６年生になっていただきます。可愛い６年生です、いいですか。

４月に学級編成があって、新しい６年生１組になった子どもたちです。私は皆さんの学級担任ということです。皆さんは３年生・４年生のときに、ほぼ週１コマ、外国語活動の経験をしているし、５年生、昨年度には週２コマの外国語科の経験をしているという状況だと設定してください。なので、身の回りのものの語彙や表現は定着しつつあるというところです。

だけど、クラスが新しくなったので、お互いをあまり知らない。「隣のクラスにいたよなぁ」という程度で、よく知らない人もいるという状況。新しい学級担任の私についても、学校にいるのは知ってたけど、「どんな先生か」あまり知らないという感じ。そういう状況だ、ということです。

「じゃあ今日はね、みんなと初めて、６年生になっての初めての外国語の授業よ！」という設定です。

さあ、３年生から外国語活動をやっています。『Let's Try! 1・2』をやっています。５年生で『We Can! 1』をやっているので、今６年生なので『We Can! 2』が始まるよ！

『We Can! 2』のテキストです。これは全部で８ページ分あります。『We Can! 2』Unit 1「This is ME!」という単元に入るという設定です。

～以下は会場の参加者とのやり取り～

じゃあ授業を始めようかな、いいかな。はい、Hello!（会場“Hello!”）若干、元気がない（笑）ですが、大丈夫ですか？　OK!　さあ、今日からね、６年生の外国語科の授業を先生と一緒にやっていくよ！

本当は、ここで「５年生のときどうやった？」とか言って、ちょっと感想を聞いたりしますよね。「私はみんなが５年生のときは半分ぐらいしか学級担任してへんし、どうやった？楽しかった？」とか、「困ったことは何やった？」なんて、ちょっと聞きますよね。いきなり授業には入らないですよね。ちょっとここで聞いたとしましょう。

さあ、今日から６年生の外国語科の授業が始まるよ！先生のことを初めて知る人もいるし、じゃあね、I'm going to talk about myself. OK? Everyone listen to me. Look!　（スクリーンを指す）This is me. This is Naoyama *sensei*. OK? I am Naoyama Yuko. Naoyama is my family name. Yuko is my first name. I am Naoyama Yuko. OK? So, my name is N-A-O-Y- A- M-A, Naoyama. Y-U-K-O, Yuko. This is my name.

Oh! Look!　（日本地図を提示して）Everyone! This is…（“Japan.”）This is Japan, our country, this is Japan. So, Naoyama *sensei*, my home town is not Tokushima. Naoyama *sensei*'s home town, I'm from?（“Kyoto, ”）すごいなあ、情報収集してる人がいますね。Very good. Yes!

That’s right.

I am from Kyoto. K-Y-O-T-O, Kyoto. I’m from Kyoto. This is Kyoto, OK? ちょっと聞いてみようかな。Where are you from? Your home town …. 腕組んでる６年がいますよ、授業中に（笑）、聞いてみましょう。I'm from Kyoto. Where are you from?
－“I'm from …. I was born in Tokushima, but ….”

喋れへん、喋れへん（笑）、６年生だから、そんなに英語は喋れへん。I'm from Kyoto. You are from…　　－“I'm from Kanagawa.”

転校してきたんやったな、思い出した。確か･･･何年の時やったかな。転校してきたん何年やったっけ？（「うーん」）忘れたらしい。（笑）
－ “When I was twenty, ”

６年で二十歳の子がいたら問題やねんけど、まあいいか。４年の時に転校してきたんやな。ごめんな、先生、忘れてたわ。Oka *kun* is from Kanagawa. Oka *kun* is from Kanagawa.やって、Naoyama *sensei* is, I'm from Kyoto. So, where are you from?
－ “I'm from Fukui.

みんな、このクラス転校生ばっかりや。確か、去年転校してきたんやったんやね。こっちで聞くわ、Where are you from?
－ “I'm from Tokushima.」

ああ、よかった。Most of you are from Tokushima.やな。But Naoyama *sensei,* I'm from Kyoto city.、Oka *kun* is from Kanagawa. So, you are from Fukui.
OK, but I'm from Kyoto, but now I’m in Tokushima. OK? I’m a teacher in Tokushima. You are in Tokushima now. Good! OK?
Oh! What's your favorite thing? What do you like? そうやなぁ、Oh, animals! What animal do you like?

覚えてる？先生方、I like ○○, I like △△, I like …何？（“Cats.”）Very good. Yes! I like cats. Do you like cats?
－“Yes, I like cats, too.”

Very nice. Do you like cats? OK, Oka *kun*, do you like cats?
－“No, I don’t.（笑）

はい、はい。You don’t like cats.か。Oka *kun*, what animal do you like?
－“I like … golden fish.（笑）

難しいのを言ったね。golden fish って何やったっけ？　golden fish やね。金色の魚か、おるんかな。(「金魚」)、金魚？ You like goldfish. OK, I like goldfish, too. OK, thank you. So I like cats.

Next, what sports do you like?　スポーツ、どんなんある？　volleyball, basketball、他は？ baseball, soccer,（“Ice hockey.”)、何かまた難しいこと言うたよ、Oka *kun*、何？（“Ice hockey.”）Ice hockey, Oka *kun*、ちょっとイイ感じや。（笑）Do you like ice hockey?
－“Yes, I do.”

わぁ、すごいよね。Any other, any other sports?
－“Swimming.

Swimming, everybody! Do you like swimming?　（“Yes.”）Naoyama *sensei*, I like ○○, I like △△. Look!（“Bowling.”）Bowling...（“Tennis.”）-Tennis. Very good guessing. Ok, so …（“Table tennis.“）Tennis and table tennis, good guessing. OK, tennis has a racket, table tennis has a racket。Yes, I have a racket, but it’s not tennis, not table tennis.（“Badminton.”）Great! Good, I like badminton. I was a champion. I can play badminton very well. Do you like badminton?（“Yes, I do.”）I'm happy. 今度、一緒にしようね。Do you like badminton?（“Yes, I do.”）Very nice! So, what sport do you like?
－“I like soccer.”

You like soccer. Who likes soccer?　後ろの方はあんまり好きちゃうねんな。みんなに聞いてみよう。What sport do you like?
－“I like tennis.”

You like tennis. Can you play tennis well?（“So so.”）これが日本人（笑)、You can play tennis well. So do you like tennis?（“No.”）What sport do you like?
－“I like baseball.”

You like baseball. Can you play baseball well?（“So so.”）OK, what's your position?（“Shortstop.”）Can you run fast? Wow, great. So anyway, I like cats, and I like badminton, one more sport …（ジェスチャー）　I like（“Running.”）OK! Running, Ok. I like jogging. Do you like jogging?（“No.”）No.（笑）

OK, about foods. So what food do you like?（“S*ushi*.”）高い！　Who likes *sushi*?さすがやね、ここはやっぱりよく魚が獲れるんですか？　So do you like *sushi*?
－“Yes. I like *sushi*.”

What *sushi* do you like?
ー「何て言うんだろう…」

Japanese, OK.
ー「鯛」

鯛だって、鯛、in English, Tai?（笑）何て言うんだろうね、鯛って。何かちょっと帰国子女いるね。Tai in English, please.
ー“A kind of fish.”（笑）

はい、ネイティブも分からないみたい。fish でいいって、間違いはなかろう。You like *sushi,* and you like fish, and especially you like Tai. OK, so what food do you like?
ー“I like *udon*.”

うどん、徳島なのに、香川ちがうん？まぁいいけど（笑）。Oh, you like *udon*. Who likes *udon*? （会場手を挙げる）多いんだ。じゃあ聞いてみよう。Who likes *soba*? 減ったね。Maybe *Kanto* people like *soba*. Do you like *udon*? *Udon*? *Soba*? おお *Udon*! But *Kansai* people… *Udon*? *Soba*? おお *Soba*!
…and I like…本当はここで絵を描きたいんだけど･･･、It's difficult. I like ○○、熱いのと違う方、I like ice cream very much. Do you like ice cream?（“Yes.”」）教えて、教えて、What flavor do you like?（“*Matcha*.”）Green tea, OK, green tea, and …?（“Chocolate.”）
Everyone,「チョコレート」×××、-Chocolate! You like chocolate, and any other flavor? Green tea and chocolate, any other?（“Vanilla,”）What? 何や、Oka *kun*?ー“Vanilla ice cream.”

今、分かった？彼が言ったこと、One more time.頼んでみよう。Once more time, please, Oka *kun*（“Vanilla.”）、Once more time, please, Oka *kun*（「バニラ」）、ちょっと今、納得した？ “「ニラ」じゃなくて、Oka *kun*、教えて。（“Vanilla.”）バニラじゃなくて？（“Vanilla,”）便利やね、こういう子がいると。
こういう場合に、ちょっと英語が得意な子を使うといいよね。vanilla と言うの？ Oka 君、もう一回教えて。（“Vanilla.”）ちょっと Oka 君の真似して言うてみようか。Vanilla（「vanilla」）、vanilla（「vanilla」）ちょっと恥ずかしそうに言ってみよう、vanilla（「vanilla」）、Who likes vanilla? あぁ多いよね。
Who likes strawberries?... ストロベリーじゃなくて Strawberry、なるほどね。Anyway, so I like ice cream and one more thing. I like tomatoes. Do you like tomatoes? Yes, yes, tomatoes are very good for our health. And one more, I like ○○…（“Mango,”）Yes, mangos. Do you like mangos? Do you like mangos? Why do you like mangos? Why? Yes, why, mangos?... Yes, mangos are sweet and soft. I like mangos. Mangos are sweet and soft.

OK! So this is me.いい？今日からね、こんな風に自分のことを紹介するの。８時間かけてお勉強するよ。８時間目にね、みんなにね、自分の紹介をしてもらおうと思ってるの。
いい？３年生から外国語の授業をしてきた。去年は週に２回もやったね。そのことを思い出して、８時間目にはみんなが、一人ずつがこんな自己紹介ができるといいな。もっと色んなことを言ってくれると、先生は嬉しいな。これからみんなでこのクラスでやっていくのに、お互いのことを知れるといいね！なんて言って、外国語科の授業開きをします。

今、ざっと私の自己紹介を軸に何をやったかというと、子どもとやり取りをしています。“やり取り”をしています。私は今、I'm in Tokushima は嘘ではありませんが、I'm a teacher in Tokushima、これはちょっと嘘です。場面設定上、I'm a teacher, and your homeroom teacher という設定にしていましたね。

しかし、この部分以外については、嘘はないです。全部の本当のこと。本当のことなので、口から思いが出てきます。どうも嘘をつくと、すぐ出てこないよね。本当のことで子どもと、やり取りをしています。自分の考えや気持ちを英語で実際に伝え合うという、言語活動から授業を始めました。

そして、子どもたちにも何人かに質問を投げかけて、自己紹介に巻き込んでいきつつ、３年・４年・５年生で学んできたことを少し思い出させながら、ということをねらってやっています。

さあ、じゃあ今度はね、みんなが知っているお友達のことについて、ちょっと聞いてみようかな。今、子どもたちは『We Can！2』のテキストが、それぞれ手元にあるという設定です。私は授業をするときには、「はい、〇〇ページを開けて」ということをあまりしていません。

そのページをポンと見せて、
“Three? Five? This page.”なんて言うと、子どもは一生懸命そのページを探す。そうやってテキストを開かせて、Wow, everyone！Look! これ、子どもたちの手元にあるという具合にしてくださいね。

This is a boy.覚えてる？『We Can! 1』にも出てきたよ。That is Anastasia, this is Sophia.覚えてる? This is Mark. OK?　本当ならここで、この４人の自己紹介のビデオを見せるところですが、ちょっとそこはおいておいて。

Look. This is Muhammad. MuhammadOh! Everyone look. These are ….（“Pyramids.”）Yes, pyramids, you know Tutankhamun. Sophia is from …? What country is Sophia from?（“Brazil.”）Yes, Sophie is from Brazil. Muhammad is from?（「エジプト」）エジプト？５年生の時に「Let's go to Italy」でやったね。あのときエジプトって言った？　何て言ったっけ、（“Egypt.”）そうだったね。Egypt だったね。Muhammad is from Egypt.

とすると、Mark is from? どこ？ Mark is from America.これが難しいよね、Anastasia is from?（“Russia.”）よく知ってるね、Anastasia is from Russia. Russia, Egypt, Brazil, America. 今日はね、Muhammad のお話を聞いてみようか。

今から、この単元の 【Let’s Watch and Think】を見ていただこうと思います。

OK, look at, Muhammad! まず、ちょっと聞いてみようか。

“Hello! As Salaam Alakum. My name is Muhammad. I’m from Egypt. I like cats. We have a cat. He is small and cute. I can speak Arabian and English.”

What? What word? What word?（“Cat.”）cat は聞こえた。One more time!どんな言葉が聞こえたか、拾ってよ。

“Hello! As Salaam Alakum. My name is Muhammad. I’m form Egypt. I like cats. We have a cat. He is small and cute. I can speak Arabian and English.”

確かに cat って言ってたね。何て言ってた？（“Small.”）small、聞こえた。他は？（“Cute.”）cute も聞こえたの、すごいね。他、何か聞こえた？（“English.”」）English は、I can speak English.すごいね。じゃあ今言ったような言葉がもう一回聞こえるか、もう一回聞いてみようか。

“Hello! As Salaam Alakum. My name is Muhammad. I’m from Egypt. I like cats.（「言ってたね」）We have a cat. He is small（「言ってたね」）and cute. I can speak Arabic and English.”

いい感じ！今みんな、どれぐらい聞こえたかな。全部分かっちゃった人？じゃあね、４分の３ぐらい分かったかな？OK！半分ぐらい分かっちゃったよ。残念！ちょっと分かった？全然分からなかった？

大丈夫。今日からね、８時間お勉強したらね、この Muhammad がどんなお話ししてたか、みんな分かるようになるよ、一緒に勉強していこうね、なんてことを言いながら、この【Let's Watch and Think】で、最後に子どもにやってほしいなと思うような、１つのモデルを見せていきます。

ここでやっていたことも、この Muhammad についての嘘は何もなかったはずです。注意をしてほしいのは、確かに私は Muhammad がどんなこと聞こえた？と言ったら、みんなが cat とか small とか cute と言ったけど、それの意味の確認を日本語でというのはやっていなかった。あぁそうだね、ということでお話を終えていた。

そして、もう１つみんなに伝えたのは、今全部分からないよ、分からなくていいんだよ、ということも伝えた。８時間やっていって、最後にはこれがみんなで分かるようになろうよね、という見通しも持たせつつ、安心感、分かんなくていいんだ、全部が根掘り葉掘り分からなくていいんだということも伝えています。

新学習指導要領では、大きく今までの外国語教育と変わるというイメージを皆さんがお持ちです。それは確かに今まで５年生と６年生に設定されていた外国語活動が、「外国語科」というまったく枠組みの違うものになるという意味では大きく変わった。３・４年生には何も

なかったところに、外国語活動というまったく新しいものが入るという意味では大きく変わった。

だけど、外国語活動であれ、それが教科の外国語科になるであれ、子どもたちに伝えたいメッセージはほんもののこと、自分の考えや気持ちを伝え合う。そのことに変わりは一切ありません。今までの５・６年の外国語活動でも同じことを伝えてきています。

また、全部分かんないよ、根掘り葉掘り全部分かんないよ，つまり，分からないことに耐え得ること。そして，始めからは分からない、だけどやっていく内に分かるよというメッセージも、今まで５・６年生の外国語活動で伝えてきているはずです。そういう意味では、枠組みは大きく変わったけれども、そこの軸のことについてはブレていないということです。

さあ、そんなことを１時間目から繰り返していきます。そして、このあと子どもたちに、じゃあ，今から，Free talk about your favorite animal. What animal do you like? I like ○○、ちょっとそんなことをお友達と紹介し合ってみようか、ということをやります。いいかな、ちょっと先生、何人かの人とやってみよう。Excuse me. What animal do you like?
－“I like rabbits.”

You like rabbits. I like rabbits, too. Why do you like rabbits?
－“Rabbit is soft.”

Rabbits are soft. So, you like rabbits. Very good. What animal do you like?
－“I like koalas.”

Koalas. You like koalas. Why?
－“It’s cute.”

そうかぁ、Koalas are cute. Very good. ちょっとやってみる？お友達と。じゃあ、お隣の人とちょっとやってみます。ちょっとだけやってみましょう。Topic is your favorite animal. OK? ３人でも結構です。前後でも結構なので、２人か３人でちょっと、About your favorite animal. Please talk, OK? Ready go! ペアを見つけてやってください。

《ペアワーク》
OK, stop! こんな風に喋れていいね。何か今、喋っていて、こんなの言いたかったのに言えなかったことってなかった？　何が言いたかった？（「優しいね、優しそうって」）What animal do you like?
－“I like giraffe.”

Oh, giraffes. が優しそう？　みんな、優しそうってどう言ったらいい？　優しそうって、何

て言うか、今まで習ってきて、５年生とか４年とか３年で教えてもらってきたので、みんなが勉強してきたので「優しそう」というんだったら、どう言ったらいい？　どう言う？
－“Nice heart.”

Nice heart、いい感じよね。他、何かアイデアある？　じゃあ、A giraffe is nice heart. ちょっと、まぁいいか。A giraffe has a nice heart. とかね。他は、こんなの言いたかったけど困ったことなかった？完璧？何も一切困ってない？（「安心する」）たれパンダみたいなのかな。安心する、安心するってどう言う？安心するってどんな状態？どんなになったときに安心してんの？（“Relax.”）relax してるね、I'm relaxed やね。
他は、何か困ったことなかった？（「色がいろいろある」）色が色々やで、ちょっと聞いてみようか。Oka 君、What animal do you like?
－“I like a goldfish.”

Goldfish. You like goldfish. Goldfish、いろんな色か。ちょっと教えて、何が言いたかったん、Oka 君、どう言いたかったん？
－「錦鯉で、色がいっぱいついてて、白と黒と金色もあるし、黄色もあるし、赤もあるし、混ぜ混ぜの魚。」

要するに、ウワーッと色がついてるやつやな。どうする、みんな、いっぱい色があるねんで、どうしたらいい？　Oka 君が言ってくれた、何色やった？　まず black, white, red, もう１個あったで何か、yellow, gold、これを言ってもいいよね。A fish is black, red, white, yellow and gold.と言ってもいいよね。でも一言で言いたかったんやって、いろんな色がいっぱいあるというの、どう言う？　今いいアイデアが聞こえた。教えて。
－“Many colors.”

Many colors. Many, many colors.でもいいよね。他は？あなたたちカタカナで聞いたことないの？（「カラフル」）カラフルでいけるやん。Colorful. A fish is colorful.それでもいいし、何かあんたらの知ってるもので色がいっぱいあるものない？一つのものに何色かあるものはない？
－“Rainbow color.

rainbow でもいいんじゃない？rainbow color でもいけそうやね。そんなのを使って、「今度は相手を替えて、もういっぺんやろうか！」とやる訳です。もう時間がないのでやりませんが、こういうのをスモールトークと言って新教材では設定をしています。
今、このスモールトークも冒頭に申し上げた言語活動の一つとして取り組んでいます。ここでも嘘は言わない訳です。本当に自分が What animal do you like?と聞かれて、I like〇〇、Why?なんて言いながら、あるいは How about you?なんて返しながら、今までに自分が習っ

たことを何度も何度も使わせるという場面を作っていく。

今、少し皆さんに体験をしていただいたこのスモールトークで大事なことは、まず１回目、子どもにやらせてみた後、私は「何か困ったことなかった？」と子どもに返しています。必ずペアでやらせると、停滞するペアが出てきます。そこを放っておくと雪だるま式に分からなくなるので、机間指導をしながら、どこで詰まってるかな？というのを見ながら、子どもに「言いたかったけど言えなかったことは何やった？」と問い掛ける。

すると、「いろんな色ってどう言うの？」というのが出てきたり、「優しいってどう言うの？」というのが出てきたりする。それを先生が「いろんな色は colorful って言うねんで、優しいは kind やな」とか、やらない。今、実際に, kind なんていう言葉は子どもからは出てこない訳です、既習でやっていないから。

子どもに、今までに習った言葉の中で使えるものはないかを探させています。どんな言葉でそれを言い表すことができるかを考えさせます。先生が単語を与えて、語彙を増やすためにやっている訳ではありません。

既習表現を、相手を替えて繰り返し使う。相手を替えて繰り返し使うことで、定着を図る。相手を替えて繰り返し使うことで、対話を継続する。長くお話を続けさせるためにやっています。どこにも嘘はない。どこにもリピートはさせていない。すべて子どもに考えさせながら、発話をさせることをやっています。

これまでの５年生・６年生の外国語活動では慣れ親しみであって、定着を第一に求めるものではありませんでしたので、このスモールトークはやっていないし、３年生・４年生に設定している外国語活動でも、この度は扱っていません。扱うのが悪いとは言っていません。扱ってもマズイとは思っていません。同じようなことをさせてやることは良いとは思いますが、高学年の中に定着を明らかにねらって、スモールトークを設定している，ということです。

さあ、今お話をしてきたことの中で、「言語活動」ということをお話ししました。スクリーンを見ていただいていいですか。「新」じゃなくて現行の学習指導要領、中学校の解説２番、こんな言葉、ブルーで言葉が書かれています。

ちょっとこのブルーの言葉をみんなで一緒に読んでみましょう。「言語材料についての知識や理解を深める言語活動から、考えや気持ちなどを伝え合う言語活動まで」と書いてありますが、ここには言語活動のことについて２つ書いてあります。これを読むと、言語活動には２種類あるんだということが分かりますね。前者と後者です。

新学習指導要領では、この言語活動の捉え方を改めています。赤い字の部分だけ、一緒に読みたいと思います。「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動」、この赤字で書いてある言語活動は、青字で書いてある２種類の言語活動の前者と後者の内どちらですか、後者です。

新学習指導要領についての研修ガイドブックでは、言語活動をこのように説明をしています。中学校の現行の解説に書かれている言語活動のうち、「英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合う活動、これを言語活動と捉える」ということを示しています。

この言語活動を授業の中心に据えてくださいということで、これは新学習指導要領に示された目標です。お手元の資料、カラー版をめくっていただくと、表が出てきますか？　その表の一番上の段が、ちょうど中学年の外国語活動、高学年の外国語、中学校の外国語がスクリーンに挙がっています。スクリーンあるいはペーパー、どちらでも結構です。お目通しをください。

説明します。読んでいただいたとおり、中学年の外国語活動、高学年の外国語も中学校の外国語も、スクリーンにはないがお手元の資料にある高等学校の外国語も、目標の真ん中に「言語活動をと・お・し・て！」という言葉が示されています。新学習指導要領では、この目標の真ん中に「言語活動を通して」という言葉を入れていることに、十分ご留意をいただきたいと思っています。

この移行期、あと４分の３、皆さんが実践をしてくださる授業で、子どもが本当のことを言っていますか？　自分の考えや気持ちをお友達と先生と ALT たちと伝え合っていますか？そのことが授業の中心になっているかどうかを再度、点検をしてほしいと思っています。

授業をたくさん拝見する機会があります。実はこれは小学校ではないのですが、中学校の授業をつい最近拝見しました。中１と中３の授業を見ました。中３の授業では、世界遺産について子どもたちが調べたことを基に、自分が良いと思う世界遺産を選んで伝え合うという活動をやっていました。最初、３人でそれぞれが言い合って練習をしました。その後、新しい３人でやり始めました。

その時に、先生はこう指示をしました。１・２・３人いたら、「１番と２番の子が伝え合いをしなさい。３番の子がそれのジャッジをして、１番か２番か、どっちの世界遺産の説明が良いかをジャッジしなさい。それが終わったら次、２と３が伝え合いをしなさい。１がジャッジをしなさい。次、１と３が伝え合いなさい。２がジャッジしなさい」という指示で授業をやっていました。

私はずっと子どもの発話を聞き、メモを取っていましたが、最後、終わってから先生にお尋ねしたのは、「先生、なんで子どもに何度も相手を替えてさせてんの？」と聞いた。「なんで１番目と２番目がやったあと、次に２番目は３番目と、なんでやらせてんの？」、あるいは「その前に別の３人グループで、なんで伝え合いさせてんの？」と聞いた。
そうしたら先生は、「何度も何度も言って、それがスラスラ言えるように、それからどう言ったら相手に伝わりやすいかをお互いにアドバイスし合っています」と、日本語で、日本語でないとできないから、「もうちょっとこう言ったほうがいいよ」とか、そのためにやっているんですとおっしゃった。

それは先生、“言語活動を通して”ということにならないですよね、という指導助言をしました。良いスピーカーを育てるのは、リスナーです。良いスピーカーを育てるのは、リスナーです。今日の最大の授業の欠点は、リスナーが Ah, really? Wow! しか言わなかったことです、と指導助言しました。

リスナーが
“What's this?”“Ah, do you like ○○?”と、質問をリスナーがすることで、スピーカーは「あ

ぁ、そういうところを強調したらもっと相手に伝わるんだな、そこの伝え方が足りなかったんだな」ということをリスナーの質問から学びますよ。今日はリスナーが uh-huh, uh-huh しか言っていません。

先生、これは“言語活動を通して”とは言い難い。確かに子どもは自分が調べてきて、「ここはとても良い所なんだ」と喋ってるかもしれないけど、言語活動を“通して”には至っていないよ、という話をした。やり取りをした後に誰かが、アイコンタクトはいいんだけど、ジェスチャーはいいんだけど、「ここはもう一回繰り返し」とか、「もっと質問をして」とか、そういうことを日本語でやり取りすることは、言語活動とは言い難い。

さっき言語活動というのは、“英語を使って”ということを確認しています。ならば、リスナーに質問をさせることでスピーカーが気付いていく。それこそが先生、“言語活動を通して”の意味ですよ、ということを指導助言しています。

さあ、ぜひ子どもたちに何度も何度も相手を替えてさせるのは、相手のリアクションが違うからです。さっきのスモールトークも一緒です。そうやって自分の発話を鍛えていくために、相手を替て何度も何度もやり取りをさせているという視点を持って、言語活動を仕組んでほしいと思っています。

お手元の１枚目の資料にカラー版であるものが、スクリーンに出てきました。この度の外国語教育改革のイメージ図です。小中高一貫ということでは、この度の改革はまず出口である高等学校がこんな目標だよ、ということを設定し、じゃあ中学校ではこうだね、高学年ではこうだね、中学年ではこうだね、というバックワードデザインで目標の設定をしています。

そういう意味で大事なことは、小・中・高がつながるということです。この「言語活動を通して」ということを、今少し『We Can! 1』、あるいはスモールトークで体験をしていただきましたが、これは中学校でも高等学校でも同じです。英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合うことを授業の中心に置く。

この表を見てください。今、平成３０年度ですが、３１年度、来年度も移行期になります。で、今移行期なので小学校では研発開発学校とか特例校以外は、みんな外国語活動をやってもいただいています。

ただ、その授業時数は学校によって違います。文部科学省は，３・４年は最低限１５時間やってねと言いました。5・6年生については最低５０時間やってねとお伝えをしています。でも３割～４割近い学校が３・４年生については年間３５時間の全面実施時数をやっています。５・６年生については、３割ほどの学校が７０時間の全面実施時数と同数を今年度からやっています。おそらく来年度、その数はもっと増えると予想しています。

なので、小学校によって、やっている時数がとても違うんです。ということは、（スクリーンを指して）この中１とこの中１、今、〇をしたこの中１の子どもたちの外国語教育の経験が、とても違うということ。来年度、中１になる子どもと３５年度に中１になる子、つまり今小学校２年生の子どもでは、小学校での外国語教育の経験が時数も違えば枠組みも違うということです。

今日ここに中学校の先生がおいでかどうかはわかりませんが、この５年間、毎年度小学校

での外国語教育の経験が違う子どもが中学校にやって来るということです。違う経験をした子どもがやってくるということ。やっとそれが揃うのが、３６年度の中１からになります。中学校は目標が高度化する、言語活動が高度化します。それに加えて入学してきた中学１年生の英語の力が、５年間、バラバラだということを意識する必要があります。

そこで、ぜひ小学校の先生には中学校の先生に、うちの学校ではこんなことをやっているんだということをきちんと伝えてほしい。中学校の先生には、もし校区に複数の小学校があったら、それぞれの小学校でどんなことをやっているのかをきちんと把握してほしいと思っています。

一番良いのは授業を見合うことですが、なかなかその時間が取れないという風におっしゃいます。もしそれならば、せめてどんな教材を使っているのかということを小学校の先生は中学校に見せる。中学校の先生はそれをしっかりと見る、ということは最低限やってほしいと思っています。この移行期間、あと４分の３、どうぞ小中連携、伝え合うこと、そして「言語活動を通して」の意味を、授業を通して理解をしてほしいと思います。

そして最後に、今私が少しこんな風に始めますよ、というのをやってみましたが、ほんの一例です。これがベストだと言っている訳ではありませんが、お感じになったと思います。ある程度の英語の力が必要だな、ということですよ。

言語活動を通して、外国語科でスモールトークもやっていこうとなったら、今までの外国語活動のときとは違って、ご指導いただく先生方に英語力が求められるということです。あと移行期間は４分の３あります。あと１年半あります。十分です。どうぞ外国語活動の授業を通して英語を使いながら、ご自身の英語力のブラッシュアップをしてほしいと思います。

英語は使わない限り、使えるようにはなりません。授業の中で英語を使うのが一番自然なんです。どうぞ、あと１年半、できるだけ英語を授業の中で使う、そして「言語活動を通して」を意識する。そして中学校に伝える、というこの３つのことを，お願いをしたいと思います。これでお話を閉じます。お疲れ様でした。（拍手）